

昭和大学病院で分娩予定の皆さま向けのお知らせ：出生前検査について

当院で受検可能な出生前検査については、当院で分娩予定の妊婦さん全員にお渡ししている下記の文書と書籍を必ずご一読ください。

- **出生前検査のご案内（A4 1枚）**
- **出生前検査についての希望確認書（A4 1枚）**
- **【書籍】安心すこやか妊娠・出産ガイド**

当院で出生前検査の受検を検討されている方は、上記文書「出生前検査のご案内」に書かれている手順を確認してください。

当院産婦人科「出生前検査相談外来」では、出生前検査についての遺伝カウンセリングを行います。“検査を受けるか迷っている”、“どの検査にするか相談して決めたい”などの出生前検査にかかわるすべての相談に応じています。電話での相談には応じていませんので、ご了承ください。

昭和大学病院産婦人科で行っている「出生前検査相談外来」や「出生前検査」について、よくある質問と回答をまとめました（全般：Q1～Q5、NIPT：Q6～Q10）。こちらは、当院で分娩される方に向けた情報です。受診方法や実施している出生前検査は病院ごとに異なりますので、ご注意ください。

◆全般◆

Q1 「出生前検査相談外来は、夫婦で受診できますか」

「夫は来られません。私ひとりで出生前相談外来を受診してもよいですか」

A1 当院の出生前検査相談外来はご夫婦での受診を推奨していますが、必須ではありません。妊婦さんひとりの受診も可能です。ただし、検査結果や胎児の状態によっては、ご夫婦そろっての受診を依頼することがあります。

Q2 「出生前検査相談外来は、いつ受けるのがよいですか」

A2 当院で受けられる出生前検査は複数あり、受けられる時期（妊娠週数）が異なります。ご自身やご夫婦が“話を聞きたい”、“相談したい”と思うタイミングで受診されてかまいません。下に、出生前検査相談外来を予約・受診される方のよくある事例を示しますが、これがすべてではありません。

- ✓ 不安や心配が強かったので、分娩予定日確定後できるだけ早い時期に予約した
- ✓ 受けたいと考えている検査ができる数日前に受診して、あらかじめ情報収集した
- ✓ 初期精密超音波検査と同じ日に受診できるよう、予約した
- ✓ もともと出生前検査は検討していなかったが、状況や考えが変わって受診した

Q3 「出生前検査相談外来を受診したら、必ず何かの検査を受けなければいけませんか」

「出生前検査相談外来は、相談だけでもいいですか」

A3 遺伝カウンセリング担当者が検査を強要することはありません。出生前検査相談外来を受診し検査について理解した上で、“どの検査も受けない”と決める方もいます。一方で、受診後に出生前検査を受けることを決めた方には、希望される検査が適切な週数で受けられるように遺伝カウンセリング担当者が手配・調整をします。

Q4 「双胎妊娠なのですが、出生前検査は受けられますか」

「双胎妊娠では受けられない検査がありますか」

A4 双胎妊娠でも受けられる出生前検査があります。ただし、検査によっては単胎妊娠ほどの精度が確認されていないものや報告される項目が限定されるものがあります。結果の解釈についても、留意が必要です。双胎妊娠で出生前検査の受検を検討されている方は、「出生前検査相談外来」を受診し、遺伝カウンセリング担当者から詳しい情報を聞いた上で検査を受けるかどうかをご検討ください。

Q5 「NT（胎児後頸部浮腫）を測ってもらえますか」

A5 当院では初期精密超音波検査の受診時にコンバインド検査（11～13週）を希望された方に限って、NTを測定します。産婦人科の超音波認定医が厳密な条件の元で計測する必要があります。コンバインド検査を希望された場合でも、胎児の大きさや姿勢が条件に合わずに測定できないことがあります。その場合には、担当医から説明があります。

NTは測定時の胎児の状態の一部であり、病気の診断ではないことに注意が必要です。NTについては、書籍【安心すこやか妊娠・出産ガイド】の説明もご確認ください。

◆NIPT（新型出生前検査、母体血胎児染色体検査）◆-----

Q6 「NIPTで胎児の性別はわかりますか」

A6 当院を含め、日本医学会が認可している医療機関で実施されているNIPTでは、性別情報は開示されません。

Q7 「NIPTを受けたいのですが、何週に受けるのがいいですか」

A7 当院で実施しているNIPTは、妊娠9週以降で受検することが可能です。基本的には妊娠9週以降であれば何週で採血しても精度に違いはありません。ただし、自然妊娠の方は、妊娠9週の妊婦健診で分娩予定日が修正されることがありますので、妊娠週数の計算の際にはご注意ください。

Q8 「NIPTは何週で受ければ、間に合いますか」

A8 出生前検査を検討される方の中には、人工妊娠中絶の選択肢を視野にいれて相談される方もいるかもしれません。NIPTは非確定検査です。結果が“陽性”だった場合に確定診断のために羊水染色体検査を検討する方もいます。そのようなケースを考慮して、当院ではNIPTを受ける時期として「妊娠9～16週」（妊娠9週0日～16週6日）と記載しています。人工妊娠中絶を考えていない方は何週で受けてもいいですし、あるいは、検査を受けないことを検討されてもいいのかもしれませんが。

Q9 「NIPTを受けたいのですが、出生前検査相談外来の受診と同じ日に受けられますか」

A9 NIPTは、妊娠9週から受けられます。妊娠9週以降で出生前検査相談外来を受診される方は、希望すれば同じ日にNIPTを受けることもできます。

Q10 「もしNIPTを受けた後に流産したら、検査料金は戻ってきますか」

A10 検査料金は検査を受けた日（NIPT用の採血をした日）にお支払いいただきます。仮にNIPT受検後に流産された場合でも、検査費用は返金されません。当院で分娩予定の妊婦さんは初期精密超音波検査（妊娠11～13週）を基本検査として受けていただきます。初期の流産リスクを考慮して、初期精密超音波検査を受けた後に出生前検査を検討されるのも選択肢のひとつです。

各出生前検査についてより詳しい情報を知りたい方や個別の相談がある方は、当院産婦人科「出生前検査相談外来」の予約をとり、遺伝カウンセリング担当者にお尋ねください。電話での相談には応じていませんので、ご了承ください。